



2015 年度サーティフィケート授与

スーパー連携大学院コンソーシアム web ニュース
2016 年 3 月 30 日

2015 年度のスーパー連携大学院プログラムサーティフィケートは、5 名の受講生に各所属大学の修了式に合わせて授与いたしました。

プログラム開講 5 年目の今年度、第 1 号の「イノベーション博士サーティフィケート」を電気通信大学 情報システム学研究科社会知能情報学専攻の栗橋翠さんに授与いたしました。また、「イノベーション博士候補サーティフィケート」を大分大学 工学研究科応用化学専攻 渡邊太喜さんに、「イノベーション修士サーティフィケート」を富山大学 理工学教育部機械知能システム工学専攻 河原昂也さん、同専攻 小島大輝さん、電気通信大学 情報システム学研究科情報メディアシステム学専攻 山本健さんに授与いたしました。

スーパー連携大学院プログラム開始 5 年間で受講生 44 名のうち、イノベーション修士サーティフィケートを 8 名、イノベーション博士候補サーティフィケートを 9 名、イノベーション博士サーティフィケートを 1 名が取得しています。



大分大学 渡邊太喜さん



電気通信大学 山本健さん



富山大学 小島大輝さん(左)、河原昂也さん(右)

「修了にあたって」

電気通信大学 大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 栗橋翠さん

博士課程 3年間の奨学金や海外研修など資金的援助をして頂き大変感謝しております。

また、日本自動車研究所の方々とは共同研究を通じて、博士研究が大変面白い方向へ進んだのではないかと感じております。心理学出身の方など、電気通信大学内に留まっていたは関わることのない方々と忌憚のない意見交換をさせて頂けたことで、高度・複雑・自動化するシステムを利用する『人間』に焦点を当てた研究ができました。

一方で、共同研究やインターンシップを除く負荷が大きく、現役社長の講話に関しても意思統一がとれておらず、受講生の混乱を招いている印象を受けました。また、私は自由応募で民間企業の採用面接を受けましたが、博士卒に求められたのは高い専門性であり、本コンソーシアムの目指している方向性とは乖離がある印象を受けました。



栗橋翠さん(左)、梶谷会長(右)

「栗橋君の勇気に感謝します」

スーパー連携大学院コンソーシアム 梶谷誠会長

栗橋君、博士号及びスーパー連携大学院の「イノベーション博士サーティフィケート」取得おめでとうございます。

スーパー連携大学院の1期生にイノベーション博士サーティフィケートを授与できたことはスーパー連携大学院を推進してきた者として、スーパー連携大学院コンソーシアムの会長として非常にうれしく思い、またホッとしています。

スーパー連携大学院は、他に例を見ない新しい試みであり、リスクの大きな挑戦であり、しかもプログラム受講生にとっては非常に負担の大きなプログラムにもかかわらず、最初の受講生に志願してくれたことに改めて経緯を表し感謝します。

このような新しいことに挑戦する勇気こそ、スーパー連携大学院が目指す人材に求める最も基礎的な資質です。スーパー連携大学院の経験を活かして、新しい活躍の場で思う存分果敢な挑戦を続けてください。

「指導教員より」

電気通信大学 田中健次教授

スーパー連携大学院のカリキュラムにより、国内各地で開講されている講義の受講や合宿、共同研究、米国への海外研修など多様な機会を与えていただき、資金援助も含め感謝申し上げます。通常の課程博士としての研究活動では得られない多くの経験は、今後の研究活動においても大きな財産になるものと思います。

彼は、自動車の運転支援システムに「共助」という従来にない新しい概念を導入しその効果を検証するなど、独自の路線を自ら切り開いてきましたが、特に日本自動車研究所との議論では心理学的側面を学び、米国でも日米の文化の違いを学ぶなど、積極的な行動力が目につきました。

また、研究室内の学生への指導は丁寧で、分野にとらわれず質問学生へのきめ細かな対応で私をサポートしてくれました。唯一、英語力など不得意分野の克服や意見の合わない人との議論展開などが今後の課題となりましたが、企業にて研究開発を進める中でそれらも克服し、今後も成長することが大いに期待できる人物と思います。